

令和8年度 埴生南小学校 学校経営方針

【学校教育目標】

あたたかく豊かな心とたくましく生きる力を育む

【めざす子ども像】

- 相手の気持ちが変わり想像できる子
- 自ら考え、仲間とともに学びあえる子
- ねばり強く困難を乗り越えられる子

① 「学校は人を総合的に育む場所である」

埴生南小学校は、子どもたちを総合的に育む場所である。子どもたちは各段階の学校生活を終えると大人になり、社会の中で活躍していく。私たち教職員は子どもたちが社会に出たときに生き生きと活躍できるように授業はもちろんのこと、学校生活の様々な場面で教育をしていく。教職員はそのことに誇りと責任を持ち、自分の持てる力をいかしながら最良の教育を提供していくことが大切である。

子どもたちには、学ぶことや学びあうことの喜びを感じてほしいし、実際に、様々な選択肢を持てるような「力」をつけてほしい。さらに、将来的には様々な選択肢を選べる「力」をつけてほしい。友だちと協力することの大切さ、助け合うことの尊さに気が付くようにしてほしい。子どもたちには将来にわたって自己実現のために、耐える「力」、苦難を乗り越える「力」を身につけてほしい。

すべては、一人ひとりの子どもの未来のために。

② 「学校はチームで運営する」

埴生南小学校の教職員全員で子どもたちを育てる。教職員は、一人ひとり違う。それぞれの価値観や生き方をもっており、教育に対する様々な課題意識がある。一人ひとり様々な手法で子どもたちに寄り添い、思いを重ねて子どもたちに最良の教育を提供していく。一人ひとりの持ち味は違っても子どもたちに対する思いや教育に対する情熱をもった教育者の集団(チーム)である。埴生南小学校においては、教職員が責任と誇りをもって、そして、お互いの信頼関係の中で、学びあい、尊重しながら職務を遂行するものとする。

③ 「埴生南小学校が地域の学校である」という視点を持つこと

埴生南小学校は、地域の財産であると認知され愛される学校づくりを行う。これまでも学校は、子どもたちを育む場所として何十年も存在してきた。この地域に生活する人々の中には卒業生もその保護者の方も多数生活をされている。その方々にとって本校はたくさんの想いのつまった場所でもある。誇りと責任を持った私たち教職員だからこそ、保護者や地域社会と協働関係を一層構築していきたい。そのためにも学校からの発信が大切である。地域の公立学校だからこそ私たちは、保護者・地域社会と信頼関係を一層築き上げていきたいと考える。

地域社会にとっての学校として愛されていくことで、現在この学校に通う児童やその保護者の方の本校への信頼感が高められ、結果として本校の教育の効果を高めていくことにつながる。

【重点的な取り組みとして】

1. 安心な学校づくり

～あたたかな居場所となる人間関係を意識した仲間・集団づくりを～

子どもたちにとって安心できる環境とは、温かい居場所と人間関係である。つまり先生や仲間の存在、居心地のよいクラスが不可欠である。特にいじめを許さない・見過ごさないことは、非常に重要なことであり、教職員のいじめへの気付きの感度を上げることが大切である。集団に何も行わなければ、あたたかい居場所になるのは運任せになってしまう。そこには必ず仲間・集団づくりの視点や仕掛けが必要である。学校生活全般において、集団づくり、仲間づくりを意識した取り組みを、学校や学年として共通理解のもとにねらいを持って継続的に行う。

また、教職員にとっても居心地の良い職場をつくっていくことが大切である。健康的に、笑顔で元気に仕事ができることが、埴生南小学校のパワーの源と考える。そのためには、職員室の雰囲気も重要である。教職員も一人ひとりが違う持ち味をもっていることを認め合うことがまずは大切である。誰もが居心地のいい職員室を教職員全員が望んでいること。ハラスメント問題が起らない職員室、教職員同士の陰口がない職員室、子どもの話ができる職員室、お互いの良いところを学びあえる職員室こそが子どもたちのためになり教職員のチーム力アップになる。

2. あたたかい心と体を育てる

～学びを楽しめる心・思いやりの心・困難に折れない心、健やかな体を育む～

子どもたちには、学ぶことの喜び、学びあうことの喜びを感じてほしい。そのために授業の中の一部には子ども自らが学びに向かうような工夫をして知識を獲得する嬉しさを実感させてほしい。

周りの人が困った時、手を差し伸べられる子どもたちにしてほしい。まずは子どもたちの

自尊感情を高めることが必要であり、他者理解できる感情移入が必要である。そのためには学級経営の中で、子どもたちをそれぞれ認めていく活動が必要で、友だち同士が関わる場面をたくさんつくっていただきたい。教室の中のドラマが思いやりの心を育むと考える。

子どもたちには、将来にわたって自己実現のために、耐える「力」、苦難を乗り越える「力」を身につけてほしい。子どもたちが高い志と夢を抱き、その実現に向けて努力する態度を培うとともに、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意見を的確に伝えることができるコミュニケーション能力を育成することに重きをおきたい。

また、上記の事柄を達成する為には健康な身体は不可欠である。早寝早起き朝ごはんなどの基本的な生活習慣はもとより、日頃から運動場に出て運動することを習慣づけ、適切な時期に適切な行事を仕掛けてさらに体力の向上をしていきたい。

3. 集団だからこそ育めることを

～より良いつながりをつくる力をつける～

学校は集団生活である。集団だからこそ育めることを意識して取り組みを進める。子どもたちは、それぞれの育ちの中で一人ひとり違う考え方や価値観を持っている。子どもと一緒に生活する中で多くの違いに触れ、認め合うことや発信の力や共感力、受容性など身につけながら人間の幅を広げてく。

その視点を持ちながら、6年間の発達段階に応じて、教師が主導して進める集団から、段階的に自分たちで、自立的にあたたかな集団（社会）がつかれる子どもたちを育成していくことが大切である。

本校は、高学年になるにつれて教科担任制になっていき、6年生ではチーム担任制になっていく。担任主導の集団から徐々に手を放していき、小学校を卒業する時のゴールは自分たちで集団をつくる力を身につけさせることである。集団を担任のせいにはしない、誰かのせいにはしない、社会に出た時は自分たちが集団を形成して社会をつくっていく。子どもたちを多くの教師の視点で見守りながら、教師それぞれの持ち味を活かしながら、必要な時に適切に支援をしていくことが大切である。

4. 地域と保護者といいつながりを

～高いコミュニケーションスキルと社会人の手本～

学校には保護者の方をはじめ多くの方が関わっている。その関係がうまくいかないと最終的には子どもの教育に影響がでる。指導が入らない。対応に追われて授業準備の時間がとれないなど。普段からいい関係を保つために丁寧な対応を心がけていきたい。なにか重大な連絡があるときは、連絡帳で終わらせず、家庭連絡や家庭訪問を行う。日々多用な中で、家庭訪問の時間が確保できないこともあるが、電話よりも保護者と会って顔を見て、しっかりと話を聞くことで解決することが多くある。一度重大な事案があっても臆せずしっかりと丁寧に対応していれば、太い信頼のパイプになる場合が多い。

学校へのイメージは最初で8割が決まってしまうと言われている。学校に来られる方に会った時は気持ちのいいあいさつと親切な対応を。

最後に

私たちの仕事はこの社会にとって重要な「人を育て」仕事です。想像してください。もしもこの仕事が無かったら今の社会はどうなっていたか。

この便利で豊かな社会は、我々の先人たちが、同じようにこの仕事をしっかり取り組んで人を育てていただいたおかげです。だから専門職として、この仕事はなくてはならない仕事なのです。子どもたちの一人ひとりの人生に大きく関わることができる。そしてその子どもの未来を広げることができる世の中の仕事としてとても重要な専門職です。一人ひとりが誇りと責任をもってほしいと思います。

しかしながら、人を育てるということは、物をつくる仕事や病気を治す仕事と違って、すぐに結果がでません。とても不安になる仕事でもあります。

この不安を消す唯一の方法は、仕事の中で自分が手を抜かないということです。自分の持てる力を十分に発揮することです。それぞれの持ち味を生かしながら一生懸命に取り組むことです。

埴生南小学校の教職員で力を合わせて、何年後かに胸をはって誇れるようにこの学校に通うすべての児童の未来をつくっていきましょう。

羽曳野市立埴生南小学校
校長 黒木 悟